

「主体的・対話的で深い学び」を目指した会計分野の授業実践

熊本県立熊本商業高等学校指導教諭 木庭 寛幸

平成29年8月に熊本ホテルキャッスルにて行われた「第50回九州地区高等学校商業教育研究大会」におきまして、開催県の特別発表枠で実施させていただきました公開授業の内容について、紹介させていただきます。

1. はじめに

本校は、熊本県の中央に位置し、熊本県商業教育の拠点校であるとともに、明治28年に「熊本簡易商業高校」として創立した、全国でも13番目に長い伝統を持つ商業高校です。全校生徒数は1,107名（男子390名・女子717名）、1学年9クラスの各学年は、商業科5クラス、会計科1クラス、国際経済科1クラス、情報処理科2クラスで編成されています。

校訓は「礼節」「剛健」、教育目標として「健全な心身の育成」「学力の向上と進路指導の充実」「地域社会の期待に応える特色ある学校づくり」「生徒を『伸ばす』教職員、生徒を『伸ばす』教育活動の実践」の4つを掲げ、「日本一の商業高校へ～志高く、恕と信頼の人づくり～」を教育スローガンとし、日々の教育活動に取り組んでいます。

2. テーマの設定理由等

近年、教育界において、「アクティブ・ラーニング」という言葉が世の中を席卷しました。文部科学省のホームページによると、「小中学校においては、これまでと全く異なる指導方法を導入しなければならないと浮足立つ必要はなく、これまでの教育実践の蓄積を若手教員にもしっかり引き継ぎつつ、授業を工夫・改善する」とあり、「我

が国の教育実践の蓄積に基づく授業改善」が求められていることが分かります。

現在は「主体的・対話的で深い学び」という言葉に置き換わったものの、いわゆるアクティブ・ラーニングによって、私たちのこれまでの授業スタイルに「変化」を加えることが必須になると考えます。特に商業を学ぶ高校（学科）では、資格試験を目指す過程で、私自身も一方的な指導に陥りがちな面も否定できません。「主体的・対話的で深い学び」の実践は私自身の課題でもあり、誰にでも気軽に取り組める授業実践を目標としました。

3. 発表内容

一部の子どもたちは、小中学校で学んでいた学習スタイルが、高校に入学すると一変したと感じるようです。小中学校では、「主体的・対話的で深い学び」に積極的に取り組んでいても、高等学校ではこれまでのように教師が一方的に説明し、伝達する一斉授業（チョーク&トーク）を中心に行われている現状があるのではないのでしょうか。そのような一斉授業を否定するつもりはありませんが、常に世の中の変化に敏感に反応し、対応できる人材を育成するためにも、これまでの学習スタイルに変化をもたらす提案を行いたいと考えました。

当日の発表では、本校会計科2年生約20名の生徒を前にして簿記会計の授業実践を行いました。

普段の授業では、授業開始前にハイタッチをすることで活発な意見交換ができるような環境を目指し、また、ペア・ワークを多く取り入れること

で主体性を持たせることに繋がるような工夫を行っています。今回の授業においても、普段実践している取り組みを基本に行いました。

授業の内容は、「財務会計Ⅰ」の「財務諸表分析」の単元とし、有価証券報告書のデータ(EDINETより抜粋)を題材として、「何のために簿記会計を学ぶのか」という学習の意義を再確認します。財務諸表分析を通じて「何ができるようになるか」を明確にしたうえで、「主体的・対話的で深い学び」を目指しました。

4. 学習指導案等

「財務会計Ⅰ」学習指導案

日 時	平成29年8月17日(木)
対象クラス	第2学年6組会計科20名 (男子10名, 女子10名)
場 所	熊本ホテルキャッスル
授業実施者	指導教諭 木庭寛幸

1 単元名

第4編「財務諸表の活用」

第28章「財務諸表分析」

(使用教科書 実教出版「新財務会計Ⅰ」)

2 単元について

(1) 教材観

近年、ROE(自己資本利益率)という言葉が毎日のように新聞で目にする。「財務諸表分析(経営分析)は、簿記会計の知識がなくても理解できる」と謳っている著書も少なくないが、数式を覚えて単純に数値を算出しただけでは、財務諸表との関連性が見えてこない。企業の将来の財政状態や経営成績を予測する力を身に付けるためにも、これまでに学んだ知識を総合的に活用することが求められる。

(2) 系統観

1年次の「簿記」及び「原価計算」において、複式簿記の基本的な考え方および財務諸表作成(勘定式)や原価計算の基礎を学習した。2年次

の「財務会計Ⅰ」においては、上場企業における財務諸表作成(報告式)も学んでいる。これまで学習した内容の総合的な学びとして、財務諸表分析の基本的な考えを学んでいく。

(3) 生徒観

簿記会計に対して興味・関心を持ち、積極的に取り組む生徒が多い。財務諸表分析に対する興味も低くはないが、実際に企業の財務関連数値を用いて分析する機会は、今回が初めてである。「暗記やパターンではなく、考える学びが大切である」という指導が根付きつつあるからこそ、数値だけを追い求めることがないように注意を払う必要がある。

(4) 指導観

- これまでの学習内容が実務に直結することを意識させる内容である。
- 各企業の有価証券報告書については、個々のウェブページからではなく、金融庁「EDINET」の報告資料を用いて行うことにより、企業間比較ができるように留意する。
- 学習指導要領に示されている科目の目標にある「会計情報を提供し、活用する能力と態度を育てる」観点からビジネスの一場面を想定し、グループでの言語活動を意図的に設定する。
- 職業会計人として必要な資質・能力についても考察する場面を設ける。

(5) 人権教育的視点

会計科の習熟度別授業展開の応用コースであり、簿記会計を得意としている生徒が比較的多い。その中でも理解力の高い生徒ばかりに注目することなく、じっくり考えることで答えを導き出す生徒についても配慮を行いたい。また、言語活動等のグループ活動において、お互いが意見や考えを出し合える雰囲気づくりや他人の意見を尊重しながらしっかりと聞く態度についても留意する。

3 単元の目標と評価規準

(1) 目標

- ア 財務諸表分析の意義や役割および種類，計算構造，分析比率など，それぞれの持つ意味を理解する。
- イ 比率法，実数法の両者を使い分け，効果的な財務諸表分析を行うことができる。
- ウ 比率法の各方法と意味を正確に把握し，どの場面でどのような比率を用いればよいかなど，より正確な分析ができる。
- エ 分析した数値や指標等を活用して，企業を適切に評価することができる。
- オ 職業会計人として必要な資質や能力について考察することができる。

(2) 評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
・企業グループの現状を把握するためには，どのようにすればよいか高い関心を持ち，有価証券報告書などにより，その学習を積極的に進めようとしている。 ・職業会計人としての必要な資質や能力について積極的に探求しようとしている。	・適切な財務諸表分析を行うことを目指して思考を深め，基礎的な知識と技術に基づき適切に判断し，表現している。 ・分析した数値や指標を基に，多角的に判断しながら自分の考えを表現している。	・財務諸表から情報の読み取り，整理している。 ・財務諸表の活用に関する基礎的・基本的な技術を身に付け，適切な財務諸表分析を行うことを合理的に計画し，その技術を適切に活用している。	・企業を分析するための基礎的・基本的な知識や手法を身に付け，その役割や意義について理解している。 ・企業の財務内容を評価する計算方法や基礎的な評価方法を理解している。

4 単元の指導計画・評価計画

(1) 指導計画

第4編 財務諸表の活用

第28章 財務諸表の活用 (全9時間)

- | | |
|------------------|-----|
| 1. 財務諸表分析の意味 | 1時間 |
| 2. 財務諸表分析の方法 | 1時間 |
| 3. 関係比率法による分析 | 2時間 |
| 4. 実数法による分析 | 1時間 |
| 5. 財務諸表を用いた演習・発表 | 4時間 |
- (本時は5. の3時間目)

(2) 評価計画

	学習活動	評価の観点				評価規準・【評価方法】
		関	思	技	知	
一次 (5時間)	1 財務諸表分析の意味 (1時間) ■財務諸表分析の意味を理解する。	○				関心・意欲・態度【ワークシート】 財務諸表分析の役割やその活用の意義に関心を持っている。 ○知識・理解【確認テスト】 財務諸表の基礎的な分析方法を理解している。 ○知識・理解【ワークシート】 財務指標を明らかにする比率法と実数法の基本的な考え方を理解している。 ○知識・理解【確認テスト】 (教科書 p192～198) 資料を基に計算式を示し，各財務比率を算出している。 ○知識・理解【確認テスト】 (教科書 p201) 資料を基に増減額を明らかにし，各財務指標を算出している。
	2 財務諸表分析の方法 (1時間) ■比率法 (関係比率法，構成比率法，趨勢法) と実数法 (比較貸借対照表，比較損益計算書) について理解する。					
	3 関係比率法による分析 (2時間) ■関係比率法による①安全性分析 (流動比率，当座比率，自己資本比率，負債化率，固定比率)，②収益性分析 (売上高利益率，資本利益率，資本回転率，資産回転率)，③成長性分析 (売上高成長率，経常利益成長率，総資産成長率) について，その特徴を理解し，整理する。					
	4 実数法による分析 (1時間) ■実数法による比較貸借対照表および比較損益計算書について，その特徴を理解し，整理する。					
二次 (4時間)	5 財務諸表を用いた演習・発表 (4時間) ■この単元やこれまで学んだ知識を活用して財務諸表から情報を読み取り，多角的に分析する。			○		技能【ワークシート】 財務諸表分析ができるように財務諸表から必要な会計情報を読み取り，整理している。
	■財務諸表分析の結果を基に最適な投資先を決定する。 ■グループで話し合い活動 (マイクロディベート) を基に自分の考えを多角的に検討する。			○		思考・判断・表現【観察】 自分の考えや意見をクラスメイトに論理的に説明している。
	■マイクロディベートでの討論結果を踏まえ，再度最適な投資先を検討し，決定する。			○		思考・判断・表現【ワークシート】 これまで学んだ知識や技術を活用し，合理的な根拠を基に投資先を決定している。

二次 (4時間)	<p>■これまでの学習を振り返る。実際の企業の財務諸表を用い、主に関係比率法を活用して、企業の状況を判断する。</p> <p>■職業会計人としての必要な資質や能力について個人またはグループで考察し、ワークシートにまとめる。</p>	○	<p>思考・判断・表現【ワークシート】 関係比率法を活用して、分析した数値から企業の財務内容に関する判断をしている。</p> <p>思考・判断・表現【ワークシート】 この単元で学んだことや企業の不適切会計の事例から職業会計人として必要な資質・能力について探求しようとしている。</p>
-------------	---	---	--

5 本時の学習

(1) 本時の目標

マイクロディベートや意見発表において、具体的な根拠を示しながら自分の考えや意見を論理的・効果的に説明でき（自己表現能力）、他者の意思等を的確に理解できる（他者理解能力）。

(2) 本時の展開

過程	学習活動	主な発問・指示	指導上の留意点と評価	備考
予鈴	・各自、前後左右でハイタッチを行う。		・意見が出やすいように、あいさつ前に笑顔になることを意識させる。	
導入 5分	<p>投資家の立場で、どちらの会社の株式を購入したほうが良いのかを考え、最適な投資先企業を決定しよう。</p> <p>授業の流れとねらいを確認する ・本時の活動のねらいと学習内容を確認する。</p>	・財務諸表の数値を分析し、最も将来性のある企業を選択しよう。	・資料の有価証券報告書については、①一部を抜粋した資料である。②決算期日は企業間で異なっているがその点は考慮しなくてよい、という2点を確認させる。	

今日の授業の目的
投資家の立場で、
各自の財務諸表分析の結果や
他の投資家の意見等を参考にして、
最適な投資先企業を決定しよう！！



過程	学習活動	主な発問・指示	指導上の留意点と評価	備考
展開 60分	<p>投資先の意思決定 ・最良の投資先企業について、個人氏名が書かれたマグネットをホワイトボードに掲示することによって、意思決定を行う。</p>	・前時までの個人で行った分析結果を基に意思決定しよう。	・ワークシートに具体的な数値や根拠等を示し、意思決定することに留意させる。	ワークシート

<p>ペアトークでの財務分析 ・担当する企業の数値（前時までに計算した財務諸表分析の数値）をお互いに確認する。</p>	・深く分析するためにペアで担当企業を分析します。	・自班が担当する企業の強みを明確にするために、ペアで意見を交換させる。
<p>マイクロディベートの実施 ・A社、B社それぞれの主張を行う。</p> <p>A社の主張 15分 B社の主張 15分 フリートーク 2分 判定・まとめ 2分</p> <p>※各グループ2回のマイクロディベートを行い、内容をワークシートにまとめる。</p> <p>【言語活動設定のねらい】 マイクロディベートを通して、自分の意見を論理的・効果的に伝える力や、相手の考えを的確に理解する力を養う。</p>	・多角的に分析するために、マイクロディベートを行います。 <p>・A社担当生徒1人、B社担当生徒1人の主張後は、さらにフリートークで意見を出し合い、意見を主張していない2人が勝敗の判定を行うように指示する。</p>	・A社2人、B社2人、計4人の担当でグループを編成させる。（計5班）
		<p>評価：思考・判断・表現（観察） [B基準] 担当企業がどのような状況にあるかを、財務諸表分析の数値を用いて考え、説明することができる。</p> <p>[A基準] B基準に加え、どの分析指標が重要であるかを判断し、説明や反論を行うことができる。</p> <p>(B基準に達していない生徒への手立て) 財務分析の数値をもう一度確認させ、学習内容に関連付けて説明できるように支援する。</p>

マイクロディベートの手順
(1) A社の主張 1分30秒
(2) B社の主張 1分30秒
(3) フリートーク 2分
(4) 審判の判定とまとめ 2分



「マイクロディベート」の様子

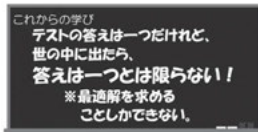
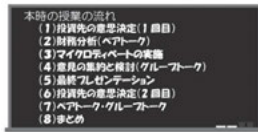
過程	学習活動	主な発問・指示	指導上の留意点と評価	備考
展開 60分 (続き)	<p>意見の集約と検討 ・マイクロディベートで出た意見を再度確認し、担当企業の強みを集約して補強する。</p>		・最もPRしたいポイントを絞り込ませる。	
	<p>最終プレゼンテーション ・A社、B社の代表者がプレゼンテーションを行う。</p>	・それぞれの会社のPRポイントをワークシートに記入させる。	・ワークシートに記入する時間を十分に確保する。	ワークシート
	<p>投資先の意思決定 ・マイクロディベートや最終プレゼンテーション等からどの会社が投資先として最も魅力的だったかを、各個人で意思決定する。</p> <p>・ホワイトボードに各自のマグネットを張り付ける。</p>	・投資家として、最もふさわしい投資先は？	・2社を客観的に評価し、根拠を示して意思決定することに留意させる。	ワークシートに記入させる。

行動目標
(1) 自分の考えをしっかりと伝えよう
(2) とにかく、たくさん発言しよう
(3) ワークシートに的確に考えをまとめよう
(4) 他人の意見は、うなずきながら、二言二語で、真剣に聞こう



「最終プレゼンテーション」の様子

過程	学習活動	主な発問・指示	指導上の留意点と評価	備考
展開 60分 (続き)	ベアトーク・ グループトーク ・自分の考えを説明する。 【言語活動設定のねらい】 学んだ知識を活用して、わかりやすく説明することで財務分析の意義や役割について理解を深める。	・最初の意思表示と2回目の意思決定を比較しながら話し合おう。	評価：思考・判断・表現（ワークシート） B基準 様々な情報を基に根拠を示しながら、投資先を決定している。 A基準 B基準に加え、2社の特徴を十分に理解し、根拠を基に投資先を決定している。 (B基準に達していない生徒への手立て) ワークシートの記述内容や教科書を参考にしながら投資先を決定するように支援する。	
	本時のまとめ	財務分析の意義は？	・数名を指名しながら、生徒の財務分析から意思決定までを価値付けする。 ・職業会計人としての求められる資質や能力についても説明する。	
まとめ 5分	次回の予告	・次回は自己評価をします。	・次回は、ルーブリックを用いて、自己評価させる。	



※各企業の有価証券報告書については、金融庁のEDINET「金融商品取引法上に基づく有価証券報告書等の開示書類に関する電子開示システム」を利用

※参考：ルーブリック（評価基準）

項目	1(低水準)	2(中水準)	3(高水準)	4(最高水準)
1. 問題の理解	問題文の要約ができていない。グループワークで、自分の考えを説明する。説明が不明確である。	問題文の要約ができており、グループワークで、自分の考えを説明する。説明が明確である。	問題文の要約ができており、グループワークで、自分の考えを説明する。説明が明確である。	問題文の要約ができており、グループワークで、自分の考えを説明する。説明が明確である。
2. 意見の基約と検討	意見の基約ができていない。意見の基約ができていない。意見の基約ができていない。	意見の基約ができており、意見の基約ができており、意見の基約ができており。	意見の基約ができており、意見の基約ができており、意見の基約ができており。	意見の基約ができており、意見の基約ができており、意見の基約ができており。
3. 最終プレゼンテーション	プレゼンテーションができていない。プレゼンテーションができていない。プレゼンテーションができていない。	プレゼンテーションができており、プレゼンテーションができており、プレゼンテーションができており。	プレゼンテーションができており、プレゼンテーションができており、プレゼンテーションができており。	プレゼンテーションができており、プレゼンテーションができており、プレゼンテーションができており。
4. 投資先の意思決定	投資先の意思決定ができていない。投資先の意思決定ができていない。投資先の意思決定ができていない。	投資先の意思決定ができており、投資先の意思決定ができており、投資先の意思決定ができており。	投資先の意思決定ができており、投資先の意思決定ができており、投資先の意思決定ができており。	投資先の意思決定ができており、投資先の意思決定ができており、投資先の意思決定ができており。
5. 振り返り	振り返りができていない。振り返りができていない。振り返りができていない。	振り返りができており、振り返りができており、振り返りができており。	振り返りができており、振り返りができており、振り返りができており。	振り返りができており、振り返りができており、振り返りができており。
6. 自己評価	自己評価ができていない。自己評価ができていない。自己評価ができていない。	自己評価ができており、自己評価ができており、自己評価ができており。	自己評価ができており、自己評価ができており、自己評価ができており。	自己評価ができており、自己評価ができており、自己評価ができており。

※参考：ワークシート

「投資先企業」選定のためのワークシート

1 最初の意思決定

投資先の選択 1回目 私が最終的に選ぶ投資先の企業は、()社です!

選択した根拠など	
----------	--

2 マイクロディベート（審判用）

議題 A社とB社では、投資先として、どちらが優れているだろうか? → 判定は? A社・B社・引き分け

A社(担当)	B社(担当)
A社の長所・短所	B社の長所・短所
わかりやすさ 1・2・3・4・5	わかりやすさ 1・2・3・4・5
説得力 1・2・3・4・5	説得力 1・2・3・4・5
特定の強み	特定の強み

3 最終プレゼンテーションの評価

※自分の担当した企業名に O/M/L を付けること。

A社	B社
A社を選択した人の主張	B社を選択した人の主張
会社の魅力 1・2・3・4・5	会社の魅力 1・2・3・4・5

4 最終の意思決定

投資先の選択 2回目 私が最終的に選ぶ投資先の企業は、()社です!!

選択した根拠など	
----------	--

年 組 号 氏名

5. おわりに

今回の発表内容は、あくまでも授業改善の提案のひとつです。これからも、育成すべき資質・能力の三つの柱である「生きて働く知識・技能の習得」、「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成」、「学びを人生や社会に活かそうとする学びに向かう力・人間性等の涵養」の指導実践を目指して取り組む所存です。

また、終了後に多くの先生方から労いのお言葉をかけていただきました。今回の授業はまだまだ完成には程遠いものですし、今後も先生方のご意見を取り入れながら研究を重ね、少しでも「主体的・対話的で深い学び」に近づくような努力と挑戦を続けます。研究発表という素晴らしい機会を賜り、多くの皆様にご指導、ご鞭撻を賜りました。心より感謝申し上げます。